

第31回 支店長のわがまち紹介



茨城県下妻市

インフラを整備し、健幸都市を標榜する

鬼怒川フラワーライン ポピーと鯉のぼり (写真提供 下妻市)

茨城県内の44の市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第31回は下妻市です。筑波銀行は、市内に3カ所4カ店の営業店を設置し、下妻市の皆さまと密接な関係を築いています。

下妻営業部長の木幡浩が、下妻市長 稲葉本治氏、副市長 野中周一氏、市長公室長兼秘書課長 中山義則氏にお話を伺いました。

●下妻市が一番と考えていること、自慢できることはなんですか。

本市は、東洋経済が毎年公表している「住みよさランキング2015」で県内6位、県西地域1位となり、毎年着実にランクアップしております。買い物に便利なこと、企業立地による雇用の確保、砂沼などの自然が残る豊かな環境、県立の進学校が2校ある教育水準の高さなどのバランスの良さが指数に現れました。

関東鉄道常総線が南北に通る、市内には駅が4つあります。常総線は北から筑西市でJR水戸線に、守谷市でつくばエクスプレス(TX)に、取手市でJR常磐線に接続しています。本市から常総線→TXで秋葉原までは1時間半弱で、時間も読めます。市内の各駅には「パーク&ライド」の推進で無料の駐車場が整備され、特に下妻駅の乗降客数は増加しています。幹線道路はほぼ4車線化され、東西に国道125号線、南北に国道294号線が通り、市内で交差しています。沿道には様々な大型店舗が展開しています。

水と緑に恵まれた本市は、県内有数の花の名所です。4月は砂沼の観桜苑の桜、5月は小貝川・鬼怒川河川敷のポピー、6月は砂沼や大宝八幡宮のアジサイ、秋は常陸秋そばの花と年間を通じて花が楽しめます。

農業も盛んで、他の市町村に先駆けた梨の輸出は県内随一の実績を誇り、特にタイとマレーシアへの輸出が順調です。トップセールスをはじめ、

生産者、JA、本市の確とした協力体制と努力により、行政が積極的に関わっている姿勢が相手国の信用を得ました。同時に、若い農家に海外へ目を向けるよう、氣勢を高めてきたことが実り、現在、農家自ら販路拡大などのために海外へ飛んでいます。農家に後継者が育ち、新たに農業を始める若者も出現しました。また、メロンの輸出も始まり、県や日本貿易振興機構(JETRO)にも一目置かれる取り組みとなっています。

6次産業化にも取り組み、梨を加工したりキュールやジャムを開発し、梨ジャムは山崎製パンの「ランチパック」に採用されました。

このことが縁で、「道の駅しもつま」は、山崎製パンとのコラボレーションによりリニューアルしました。リニューアル後、さらに評判が良くなり、たくさんの人に来ていただき、特に女性を中心に焼き立てパンのコーナーが好評です。

施策はトップダウンで進めることもありますが、上層部だけが踊っていてもまとまりません。本市は全職員がやる気とモチベーションにあふれ、トップダウンの施策がきちんと形になることも自慢です。農作物の輸出を担当している職員は、担当になってか



道の駅しもつま「BAKERY しもんぱん」 (写真提供 下妻市)



稲葉市長



野中副市長



中山室長



木幡部長

ら勉強して成果を出し、県からも海外戦略のために欲しい人材だと言われるほどです。

企業誘致については、市内の工業団地は全て埋まり、工場建屋が建設され、雇用が始まりました。本市は、誘致した企業へのサポートを進出後も一貫して

続けています。新卒採用の時期は、市職員が企業の担当者と一緒に学校を訪問したり、県などへの交渉や高圧電線、水道の敷設の手続きを支援したり、きめ細かく対応しています。複雑な手続きを支援し、迅速に解決することで、進出企業の役に立ち、他社に本市を紹介してもらえらる「進出企業が次の企業を呼ぶ」企業誘致となりました。

学校の耐震補強・大規模改修は、平成28年の春には終了する予定です。新築に近い仕上がりで、トイレも洋式になり、子どもたちにも好評です。今後は、教室へのエアコンの設置を検討します。

平成27年9月関東・東北豪雨の被害を受けたピアスパークしもつまの修理は進んでおり、平成28年3月までには営業再開できる見込みです。経営は苦戦しており、各方面から苦言を呈されていますが、臨時休業中の今は、「なくなるとさびしい、営業を続けるように」という激励を受けるようになりました。

砂沼サンビーチは、チケットの販売方法を工夫して集客を図り、夏季の40日程度の短期間の営業にも関わらず、例年14~15万人の入場客を誇ります。

●今後の展望をお聞かせください。

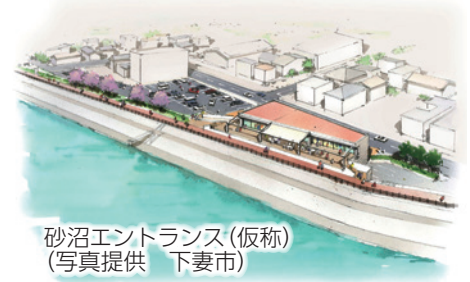
このように、「下妻市総合商社」の社長のつもりで活動しています。目に見えない投資を先の利益に結びつく営業経費と考える民間企業の感覚を大切に、市政運営していきます。

現状もある程度便利なまちですが、「これぞ下妻」という特長のあるまちづくりを実践していきたい。定住人口の減少は避けられなくても、道の駅や砂沼を生かして交流人口が絶えないような仕掛けをし、元気なまちをつくりたい。

企業誘致により雇用を生み出し、幹線道路沿いの店舗や公園の設置で暮らしやすさを整える「外堀」を埋める仕掛けは進み、今後は郊外へ向きがちな人の流れを中心市街地へ呼び戻すための施設を整備します。1つ目は、砂沼を眺望できるカフェ・レストランを併設した観光交流センターやイベント対応可能な駐車場などの整備。2つ目は、まちなかの遊休地に、スポーツ用の屋根付多目的広場を建設し、更衣室も設置した地域交流センターの整備です。

また、「健幸都市」となるため、これらの新施設を活用し、砂沼を生かしたウォーキングや自転車の楽しさ、加えて「筑波サーキット」を広めて人を呼び込み、スポーツを盛んにします。ピアスパークしもつまと連携して宿泊できるようにすれば、本市を周遊してもらえます。圏央道が開通すると、本市から八王子までは1時間強になり、さらに成田方面へのアクセスも便利になるので、集客の増加、新たな地域からの集客がねえれます。

日野自動車古河市に移転することに伴い、定住促進の一環として従業員向けに本市



砂沼エントランス(仮称)
(写真提供 下妻市)

を紹介するバスツアーを実施しました。参加者からは「想像していたより田舎ではない」「住みやすい」「教育環境が充実している」などお褒めの言葉をいただきました。子育て世帯の、特に女性が居住条件として重要視する教育環境は、下妻一高、下妻二高という進学率の高い県立高校があることでずいぶん好印象のようです。

●筑波銀行に期待することは何ですか

今後も、地域に密着し、地域を元気にしてくれる営業に期待します。

平成28年5月に下妻市立図書館の向かいに新築移転する店舗は、トイレや会議室などが住民に開放され、広い駐車場をイベントスペースとして活用



下妻市イメージキャラクター
シモンちゃん
(写真提供 下妻市)

できると聞き、夏まつりの千人おどりなど地域活動の場になることを大いに期待しています。また、新店舗が面する道路は、今後、本市のメイン道路としての役目も持ちあわせているので、市の中心的な施設になることも期待しています。